



日本福音ルーテル教会 北海道特別教区報

第42期第3号

2022年12月16日

発行者:小泉基

「久しくまちにし」に寄せて

小泉 基

先月行われた「秋の集い」のグループでの時間に、「わたしの好きな賛美歌」としてわたしが紹介したのは、教団讃美歌 94 番「久しくまちにし」(教会讃美歌 9 番)でした。毎年アドベントの時期には必ず歌われる、この季節にふさわしい賛美歌だといえるでしょう。

この讃美歌に思い入れがあるのは、わたしが若かった頃にあこがれていたある聖公会の先輩の愛唱賛美歌であったからです。その先輩の結婚式の時に歌われて、おおよそ真夏の結婚式で歌われるような賛美歌ではありませんから、はじめは強い違和感を感じたのです。そこで式の後にその理由を直接尋ねたところ、この賛美歌の歌詞に希望を見るからだ、と先輩がその思いを語ってくれたのでした。

その頃、その先輩が熱心に取り組んでいたのが、ビルマ(ミャンマー)の民主化運動支援でした。ようやく民主化を達成したビルマの政府を倒して 1988 年に独裁政権を樹立した軍は、民主化を願う数千人の人たちを大量に殺害します。少数民族が暮らす地域に避難した民主化勢力の山岳キャンプにまで足を運んで青年たちの支援に取り組んだ先輩にとって、「主よ、はやく来て、民衆の呪縛を解き放して下さい」「平和の花さく国を樹立して下さい」と歌うこの賛美歌は、民主化を願う祈りそのものであったのだと思います。

若い頃、エキキュメンカルな青年活動に魅力を感じ、教派を越えた多くの出会いによって育てられてきたわたしにとって、この先輩との出会いは、わたし自身の信仰成長にとってもかけがえのない鮮烈な経験でした。後にこの先輩は、東北大震災後に三陸に入って被災者、特に子どもたちの支援にかかわるようになり、その活動の中で残念ながら交通事故のために命を落とされることになりました。2014 年、東京で行われたこの先輩の葬儀にあたって、やはりこの「久しくまちにし」が賛美されました。

昨年 2 月以来、再びミャンマーの人々は独裁政権の弾圧に苦しんでいます。アドベントのこの時、大切な先輩のことを思い起こし、「主よ、はやく来て、人々の呪縛を解き放して下さい」。ミャンマーにも、ウクライナにも、そしてこの日本にも、「平和の花さく国を樹立して下さい」と祈りながら、この賛美を口ずさんでいるのです。

- 1 久しく待ちにし 主よ、とく来たりて、
み民のなわめを 解き放ちたまえ。
主よ、主よ、み民を 救わせたまえや。
- 2 あしたの星なる 主よ、とく来たりて、
お暗き この世に み光をたまえ。
主よ、主よ、み民を 救わせたまえや。
- 3 ダビデの裔なる 主よ、とく来たりて、
平和の花咲く 国をたてたまえ。
主よ、主よ、み民を 救わせたまえや。
- 4 ちからの君なる 主よ、とく来たりて、
輝くみくらに とわに即き給え。
主よ、主よ、み民を 救わせたまえや。



各教会の近況報告

【函館教会】 小泉 基

■スモールマーケット：今年も函館教会は、「スモールマーケット」と称するミニバザーに取り組みました。9月末～10月頭、週末のみの5日間の開催でしたが、メルカリで販売した分や閉店後にリサイクルショップに持ち込んだ分を合わせて10万円を超える収益があり、釜ヶ崎の支援や礼拝配信機材の更新に用いることが出来ました。■新式文の導入：日笠山牧師においでいただいて「新しい式文と賛美の学び」を開催したのは5/27(土)のことでした。それ以降、礼拝で讃美歌増補版を歌ってみたり、礼拝後に新式文を歌う練習を積み重ねてきました。そしてコロナ対応の短縮礼拝を終えて、今年のアドベントから通常の礼拝形式に戻すタイミングに合わせて、礼拝での新しい式文の使用をスタートしました。牧師も奏楽者も会衆も、まだ習熟したとは言い難いですが、新しい旋律も新鮮で美しいと、今のところ好評です。■交わりの時間：10/23に三浦神学生が道南研修に来られて礼拝を担当して下さったことを機に、愛餐を含む礼拝後の交わりの時間を再開しました。完全黙食でおにぎりを食べ終わった後に、マスクを着用。お茶を飲みながら神学生との交流の時間を持ちました。語りあうことができる恵みと喜びを再確認しました。



【恵み野教会】 中島 和喜

恵み野教会では例年であれば教会バザーをやっている季節でしたが、今年もバザーを開くことは叶いませんでした。そのため教会では昨年からミニバザーを行ってきました。牧師としても何か出したいと思い、恵庭市と言えればやっぱり「花」だろうと思い、教会員が習字したみ言葉を花の写真と共にハガキに印刷したものを出品いたしました。花とみ言葉に満たされて、寒い季節への備えといたしました。

11月第1週は全聖徒主日だったため、今年も写真の横に花を飾り、礼拝堂を華やかにして、来る方々を迎えました。先に召された方々を主に委ねていく、その思いを改めて抱いていくことが出来たように思います。

11月3日に開かれた教区秋の集いには、オンライン5名、現地5名の方が参加し、それぞれに讃美歌がもたらす養いの力の大きさを皆で思い起こしました。教会でも何か讃美歌を用いた企画が出来ないかと話し合われるほどに、讃美歌への思いの強さを再確認したところです。クリスマスには久々に集会を持つことに決まり、教会としてクリスマスへの備えを喜びと共に過ごすことが出来ています。雪が降り寒さが訪れる中であって、ホッと心暖まるクリスマスにしていきたいと、楽しく様々なことを企画しているところです。



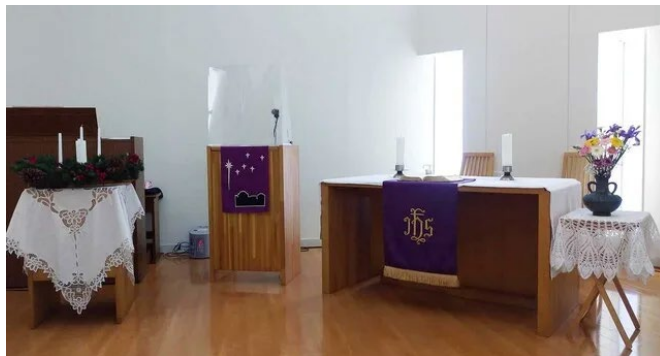
【帯広教会】 岡田 薫

帯広教会の「秋の風物詩」といえば、十勝豆のお仕事会です。バザーに代えて全国の皆さまに北の大地の美味しいお豆をご紹介するようになって、かれこれ20年くらい。私自身は赴任してからの関りですが、教会員有志によるリードの元、手慣れた手つきで各種のお豆が袋詰めされていく様子は圧巻です。道内外の教会の皆さんに祈りと共に覚えられ、利用いただいていることに心から感謝します。今年のお仕事会は本日(12/4)で無事に終了いたしました(若干残っていますので、追加で欲しいという方はご連絡ください)。未だ食卓を囲んでワイワイおしゃべりすることは難しい状況ですが、全国におられるお仲間思いを馳せつつ、袋詰めや梱包などを行うひと時はとても貴重な時間だったなあとしみじみ感じています。ある時には秋に結婚式を挙げられたカップルから岐阜特産の富有柿が届いたので、作業後にみんなで美味しくいただいたことも嬉しいことでした。季節の変わり目に体調を崩された方が少なくありませんが、クリスマスには共に礼拝の恵みに与れますようにと祈りつつ過ごしています。



【札幌教会】 日笠山 吉之

秋の札幌教会はたくさんの行事や特別な礼拝がもたれました。まず、9月の第3週目の日曜日は、毎年恒例の「墓前礼拝」が行われました。あいにくの雨の中でしたが、早くも紅葉し始めた平岸の教会墓地には納骨された故人のご遺族の方々がたくさん集まれ、共に祈りを捧げました。今年もオンライン配信を行ったため、札幌まで来ることのできない方々もオンラインを通じて共に礼拝に与ることが出来ました。



10月の第1週目はルーテル神学校による「講壇奉仕礼拝」でした。説教者はジェームス・サック先生。今年もオンラインによる礼拝となりましたが、サック先生の慰めに満ちた説教と、グリーンワークに関する講義を聞きました。第3週目の教会学校では、「秋の音楽とお話し会」が開かれました。朗読のエキスパートである三浦神学生の語りと、私のピアノによって、プロコフィエフの『ピーターと狼』がめばえ幼稚園のホールで上演され、たくさんの親子連れが来られました。10月の最終週は教区の主催による「講壇交換礼拝」でした。今年は、函館教会の小泉基牧師と札幌教会の日笠山が入れ替わって礼拝の奉仕をいたしました。小泉牧師は葬儀が入ったため函館～札幌間を2往復され、その上二日目の往路では汽車が鹿に衝突して到着が遅れるというハプニングもありましたが、そんな中でも印象深い説教をしていただき教会員に深い感銘を与えられました。31日は、言わずと知れた「宗教改革日」。道央地区では、毎年JELCとNRKが合同で礼拝を行っています。今年の会場はJELCの札幌北礼拝堂。説教者はNRK小樽オリーブルーテル教会の木村繁雄牧師でした。今回は初めてオンライン配信が試みられ、道内のJELC・NRKの諸教会にも礼拝の様子が届けられました。

11月第1週目の「全聖徒主日礼拝」は天気にも恵まれ、3礼拝堂ともたくさんのご遺族の方々を迎えて行われました。その翌日には、札幌教会の最年長であられた大賀梅子姉が召天。ちょうど102歳の誕生日を迎えられたその日に、召されました。晩年は施設に入所しておられた梅子さんでしたが、葬儀は懐かしい札幌礼拝堂でしめやかに営まれました。第2週目は「子ども祝福礼拝」が札幌礼拝堂で行われました。あいにくの天気でしたが、今年もたくさん子どもたちが家族と共にやってきて、一人ずつ牧師から祝福を受け、記念のスプーンをもらいました。第4週目からは、いよいよ待降節。各礼拝堂でも、クランツに立てられたアドベントキャンドルに最初の火が灯りました。今年のクリスマスはどんなクリスマスになるでしょう？今から楽しみです。

なお、8月から札幌教会でのインターンが始まった三浦慎里子神学生は、11月末に「中間評価会」を終え、研修も折り返しに入りました。この間、道内の各教会にて説教や研修の機会をいただいたことを、指導牧師としてお礼申し上げます。三浦神学生は九州の熊本出身ということで、初めて体験する北海道の冬に戦々恐々としていますが、たくさん食べて飲むことが好きなので、おそらく北海道の厳しい寒さも無事に乗り切ることが出来るでしょう。引き続き皆さんのお祈りをよろしくお願い致します。



教区秋の集いに参加して

11月3日(木/祝)に教区秋の集いが行われました。計48名の参加者が与えられ、とても賑やかなひと時となりました。そこで参加した方々の感想と、発表した好きな讃美歌を数名の方に聞いてみました。

石垣幸子(恵み野)

リモートによる「新しい式文」の礼拝に参加させて頂きました。札幌の日笠山先生、函館の小泉先生、帯広の岡田先生。あちこちにいる参加者全員が1つの画面に写し出されるという不思議な礼拝でした。新しい式文による礼拝が進められ、小泉先生の“賛美”というテーマで説教のあと、各々が好きな讃美歌を出し合うプログラムがあり、恵み野教会では5人の分かち合いがあり、その中で映画(バベットの晩餐会)の中で歌われた讃美歌(324番)の選びがあつて、映画の内容まで話が進み大いに盛り上がったことでした。メカに弱い私はこの形式による礼拝もイイナーと思い参加して良かったです。

鈴木綾子(恵み野)

去る11月3日、教区秋の集い合同礼拝に教会に出向く形で参加いたしました。出席者は5名、スクリーンを前にして主日礼拝と変わらず、自然体で参加する事ができました。いつもの違いは、4つの教会、4人の牧師の内に恵み野教会も確かに在ると感じられた事です。

ラインでつながる人々の気持ちが少し分かるように思えました。新式文に増補版讃美歌、多少のトラブルにも、5人とは言え集う事の心強さがありました。

分かち合いで、讃美歌に込めるそれぞれの思いと共に声を合わせて歌う恵みは心に沁みて、暖かくなるとても心地よい1日となりました。主に感謝いたします。

秋田直枝(新札幌)

私たちの信仰生活の旅路は、み言葉によって導かれ、備えて下さる主の道を一心に歩いているんですが、主はみ言葉だけではなくて信徒一人一人の愛唱讃美歌を通してその人に必要な恵みを豊かに与えて下さっているんだと知らされて、意気投合する場面もあって喜びを共有できましたことは本当に驚きと感謝で一杯になりました。

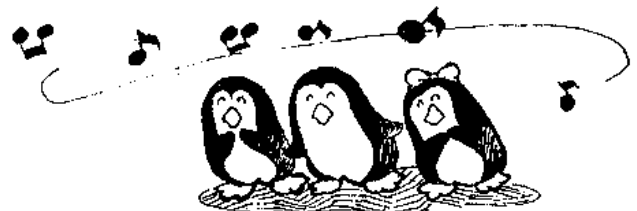
「わたしの魂よ、主をたたえよ。主の御計らいを何ひとつ忘れてはならない。」

詩編103:2 アーメン

蔵谷俊夫(新札幌)

私は讃美歌21の575を提示しました。かなり著名な讃美歌のはずですが、意外に知らない人もいて、歌詞のすばらしさに感動されたりして、戸惑いつつもうれしかったです。

当初は讃美歌というテーマでいかほど話せるか心配でしたが、思ったよりも盛り上がり、楽しいひとときとなりました。



私の好きな讃美歌

鎌田敏照(札幌) 教会讃美歌49番 「新しい年を迎えて」

クリスチャンであった妻とこの教会で挙式し、当時まだ洗礼を受けていなかった私が、妻と初めて元旦礼拝に出席してこの歌を聴いた時、新年はじまりの日に、心が洗われるような清々しい気持ちになったことを思い出します。

松島 直子(札幌) 教団讃美歌85番 (教会332番) 「主の真理は荒磯の岩」

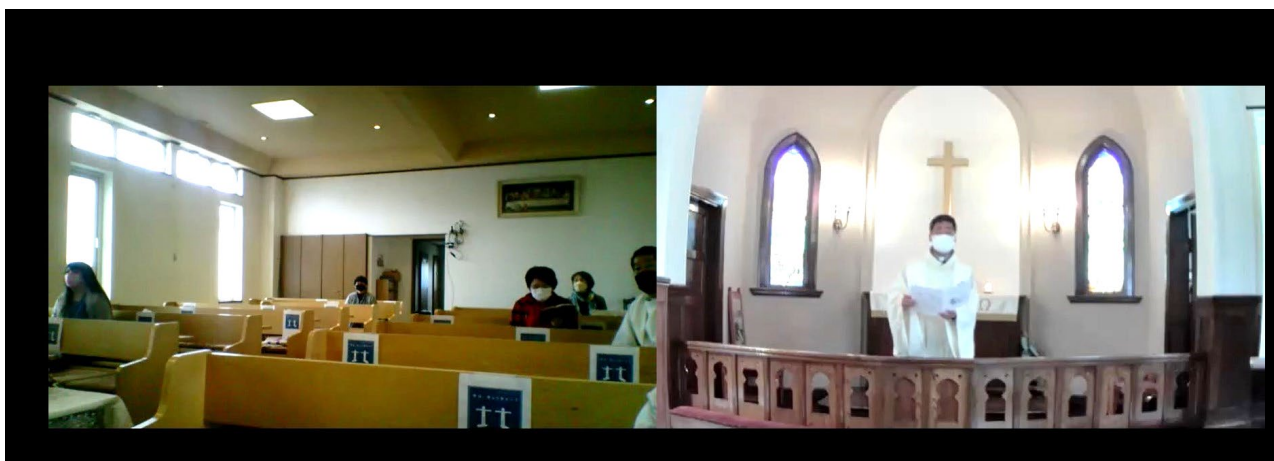
北星女子で中学高校6年間を過ごし、学校で歌っていた教団讃美歌の方に愛着があります。少しずつ昇っていくへ短調の旋律が、一步一步、気持ちを深めていく感覚と重なりあい、とても好きです。わたしのなかの荒波を、安心して進む勇気をもたらえる讃美歌です。教団讃美歌85番は文語調の歌詞なので、それがまた、心にグッと迫ってきます。特に冒頭の“主のまことは 荒磯(ありそ)の岩 さかまく波にも 動かかん”の部分が好きです。ああ、日本語の賛美は綺麗だなあ…と思いながら歌っています。

井島正明(札幌北) 教会讃美歌131番 「聖なる 聖なる 聖なる主よ」

理由:私がCSの教師をしていた10代の頃によく口ずさんでいた讃美歌が131番で、「聖なる聖なる聖なる主よ」ー当時は「かな」だったと思います。神様の変わらぬ愛と、とこしえの信仰を誓う時には、この讃美歌が自然と歌詞・メロディーが浮かんできたくらい好きな愛唱歌です。

高原正明(札幌北) 教会讃美歌245番 「神のみことばは」

曲がルターの作曲により、私の好きなバッハのコラールにも使用されていること。また、歌詞が「神の言葉の規則集」ともいわれる詩編119編による、とされているからです。



教区秋の集いの様子

木下多津子(函館) 教団讃美歌 298 番 「安かれ 我が心よ」

小さい時から礼拝で何度も耳にしたメロディーがシベリウスの『フィンランディア』である
と知ったのは、中学生になってからのことです。聞かたび、賛美するたび、心が癒やされます。

10 月末、教会の愛する兄弟が天に召されました。そのご葬儀では、奏楽者としてこの
賛美歌を弾かせていただきながら、兄弟の死を悼む私の心が神さまの平安でいっぱい
なるのを感じる事が出来ました。

家事・子育て・・・、なかなか思いどおりにいかなくて、心がざわざわしてしまう私ですが、
「やすかれ、わがこころよ 主イエスはともにいます」という歌詞にも大いに力づけられます。
葬儀でよく聞かれる賛美歌ですが、「父なる神の家に行く」まだ途中の私も、日々この賛
美歌を口ずさみながら、神さまの平安をいただいて過ごしたいものです。

岡村順子(函館) 教会讃美歌 175 番 「うるわしき救い主」

今から 14 年くらい前、当時函館教会の牧師のソベリ先生に招かれて教会に行くよう
になりました。私はまだ洗礼を受けていませんでしたが、月に一度の夜の英語礼拝に行くよ
うになりました。夜の礼拝の中で必ず歌った讃美歌が「Beautiful Savior」、うるわしき救い
主でした。しかし礼拝の中でソベリ先生がオルガンをひいて、一緒に歌うのです。その姿
にとても感動して、私もこの歌を覚えて歌いました。今でも礼拝の中でオルガンをひくソベ
リ先生の姿を思い出します。

有働あけみ(帯広) 教団讃美歌 461 番 「主われを愛す」

主われを愛す 主は強ければ われ弱くとも 恐れはあらし とあり
「われ弱くとも恐れはあらし」にどれだけつらい時、励まされたからわかりません。いつでも
一人の時に「わが主イエス」と何度も呼び、歌うと、共にそばにいて、そっと寄り添って下さ
る思いがします。

岡田ひとみ(帯広) 教会讃美歌 471 番 「主よみもとにちかづかん」

この讃美歌を選んだのは、今年6月に天に召された小父との思い出があるからです。
祖父母がクリスチャンでしたので、葬儀は教会で執り行い、火葬場で最後のわかれの時
に小父の良い声で歌うこの讃美歌が私の心に沁みており、小父にも歌ってあげたかった
と思いこれを選びました。



好きな讃美歌を聞いてみました！

11月の間、各礼拝堂にて好きな讃美歌のアンケートを実施いたしました。
その結果、111名（114票）もの方がご自身の好きな讃美歌を選んでくださいました！
そこで、無粋ではありますが好きな讃美歌ランキングを発表いたします！

やっぱり大人気！

第1位 10票 教会讃美歌371番（教団312番も含む）
「いつくしみ深き」

北海道ならではの選曲！

第2位 6票 教会讃美歌213番
「朝露に輝き咲ける」

第3位 4票 教会讃美歌171番
「かがやく日を仰ぐとき」



3票獲得

教会讃美歌	394番	「主よ終わりまで仕えまつらん」
	382番	「ここは神の世界なれば」
	370番	「しずけき祈りの」（教団310番も含む）
	337番	「やすかれ我が心よ」（教団298番も含む）

2票獲得

教会讃美歌	9番	「きたりませみ子よ」
	31番	「羊はねむれり」
	49番	「新しい年を迎えて」
	131番	「聖なる聖なる」
	166番	「主をたたえ主を誉めよう」
	175番	「うるわしき救い主」
	298番	「心まよいゆくをやめて」
	324番	「ただ神を望みて」
	328番	「主イエスに従う」
	331番	「罪のふかみに」
	365番	「あいなるみかみに」
	370番	「しずけき祈りの」
	453番	「さかえあれ 死に勝ちて」
教会讃美歌増補版	49番	「わたしたちが暗闇に」
教団讃美歌	461番	「主われを愛す」
讃美歌21	575番	「球根の中には」
こどもさんびか	131番	「かなしいことがあっても」
	35番	「みことばいもうけ」

1票ずつではありますが、こんな讃美歌も選ばれました！

教会讃美歌

25、33、38、
227、231、245
285、290、307、
332、334、346
352、375、402
414、430、471
501

教団讃美歌

94、112、191
243、298、332、
338、391、496、
500、527、546

教団讃美歌第二編

26、136

こどもさんびか

185

讃美歌21

57、81、226
390、451
504、563

聖歌

229、520
604、651

ここに挙がっている愛唱讃美歌で、聞いたことのないものがあればぜひ聞いてみてください。もしかしたら、新たな愛唱讃美歌との出会いになるかもしれません。会衆讃美歌を大切にしたルターの意志を継ぐルーテル教会だからこそ、これからも音楽による養いを受けつつ声高らかに賛美してまいりましょう！

教勢動向

函館教会	洗礼	荒木章	(9月29日)
	召天	荒木章	(10月28日)
札幌教会	召天	大賀梅子	(11月7日)